

第9章 男女共同参画社会の実現に向けて

9-1 男女共同参画のもたらす影響

◎「仕事と家庭生活のバランスがとれた生き方ができる男性が増える」が51.6%。

問28 今後さらに、女性と男性が家庭や地域社会へ参画していくことで、どのような変化がもたらされると思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

図9-1-1 男女共同参画社会の実現に向けて (全体・性別—平成21年度)

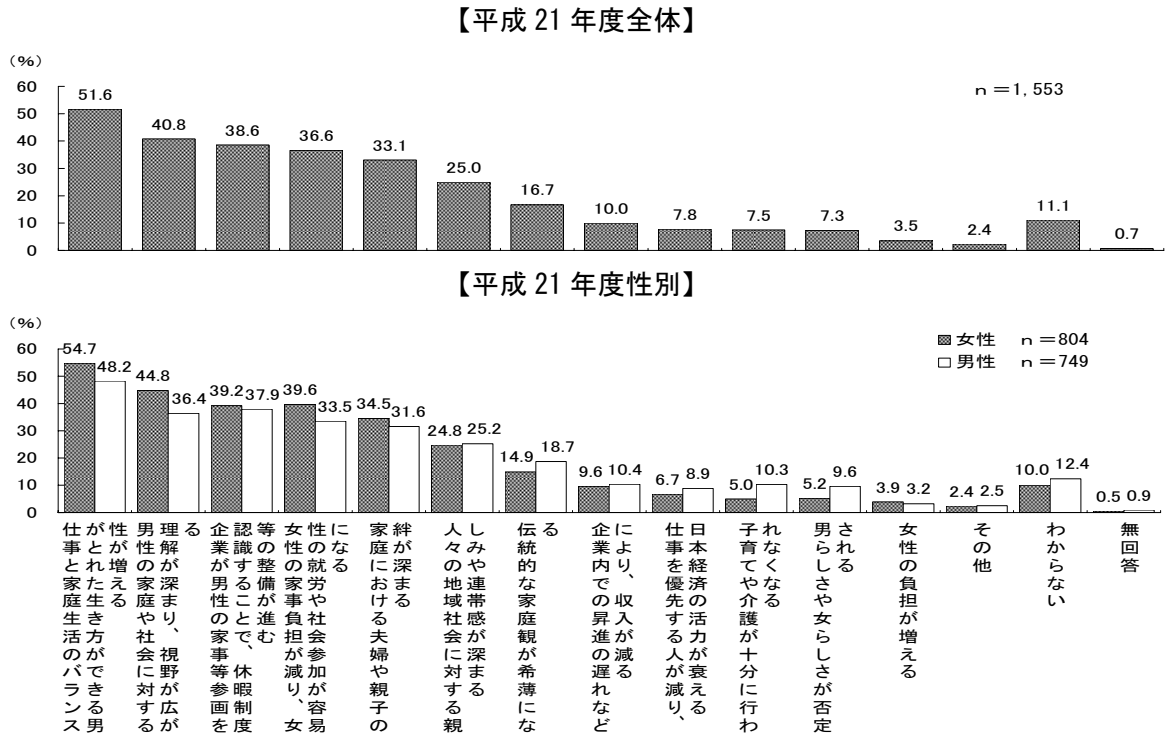
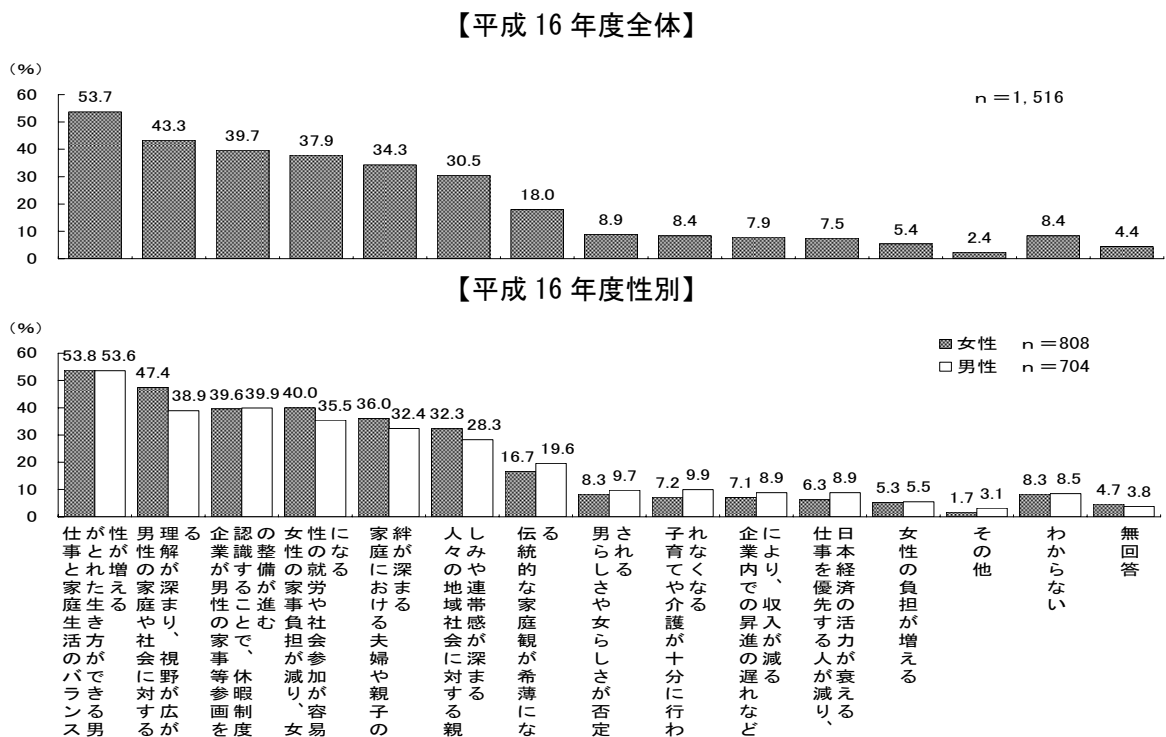


図9-1-2 男女共同参画社会の実現に向けて (全体・性別—平成16年度)



男女共同参画の進展による変化については、「仕事と家庭生活のバランスがとれた生き方ができる男性が増える」が 51.6%で最も多く、「男性の家庭や社会に対する理解が深まり、視野が広がる」が 40.8%で続いている。以下、「企業が男性の家事などへの参画の重要性を認識することにより、労働時間短縮や休暇制度の整備が進む」(38.6%)、「女性の家事負担が減り、女性の就労や社会参加が容易になる」(36.6%)などの肯定的な意見が多くを占めている。一方、「伝統的な家庭観が希薄になる」(16.7%)などの否定的な見解は少数にとどまっている。

(図9-1-1)

【性別】

性別でみると、男女とも概ね共通した認識が示されている中で、「男性の家庭や社会に対する理解が深まり、視野が広がる」、「女性の家事負担が減り、女性の就労や社会参加が容易になる」などでは女性からより多くあげられており、男女共同参画の進展に伴う自らの社会参加への期待感がうかがえる。(図9-1-1)

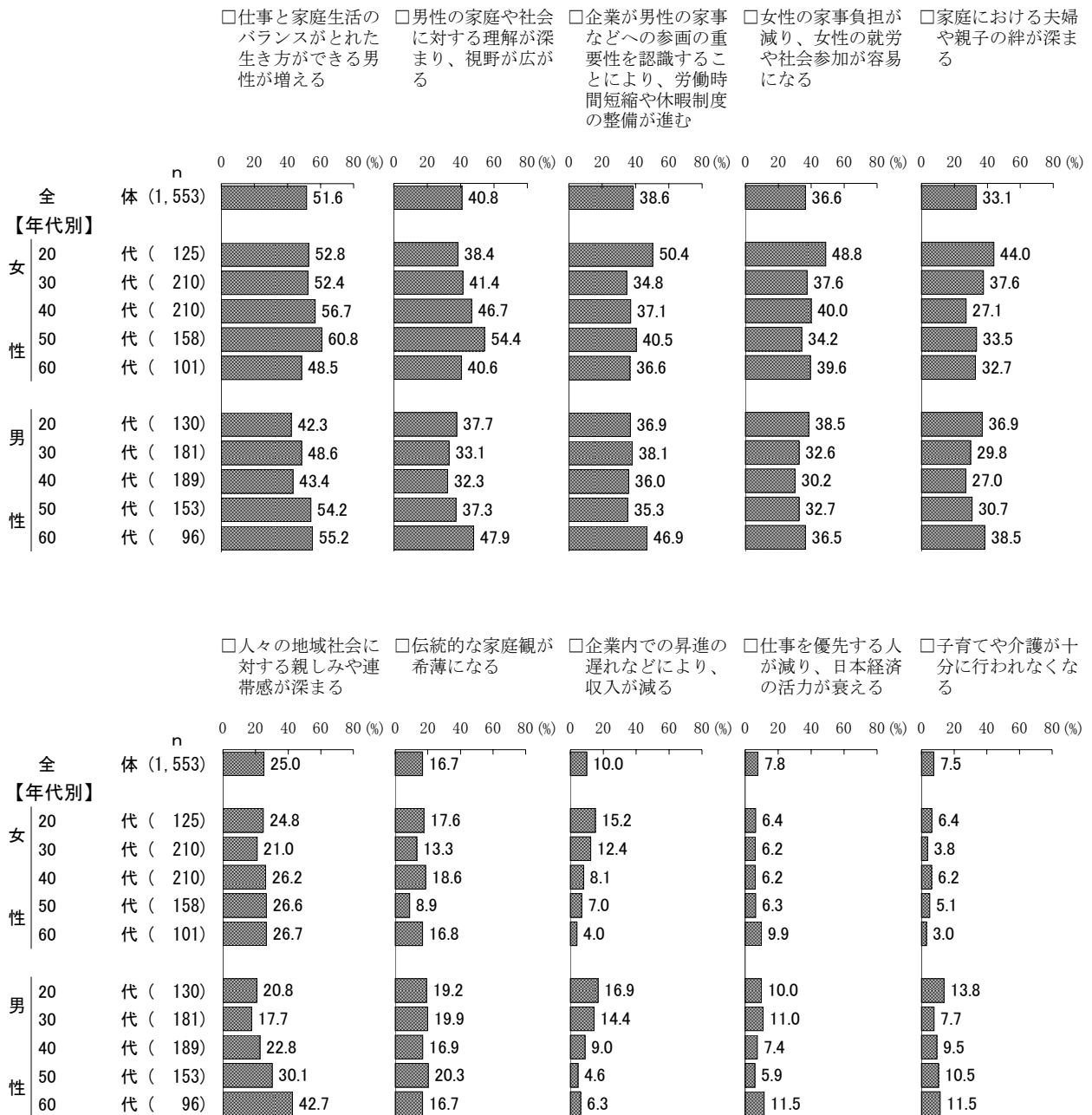
【過年度比較】

「人々の地域社会に対する親しみや連帯感が深まる」は平成16年度30.5%から25.0%と減少しており、特に女性では32.3%から24.8%と減少している。(図9-1-2)

【性・年代別】

性・年代別でみると、上位項目に大きな違いはなく、おおむね共通した認識が示されている。その中では、女性 20 代において「企業が男性の家事などへの参画の重要性を認識することにより、労働時間短縮や休暇制度の整備が進む」で 50.4%、「女性の家事負担が減り、女性の就労や社会参加が容易になる」で 48.8%と多くなっている。(図 9-1-3)

図 9-1-3 男女共同参画のもたらす影響（上位 10 位）（性・年代別）

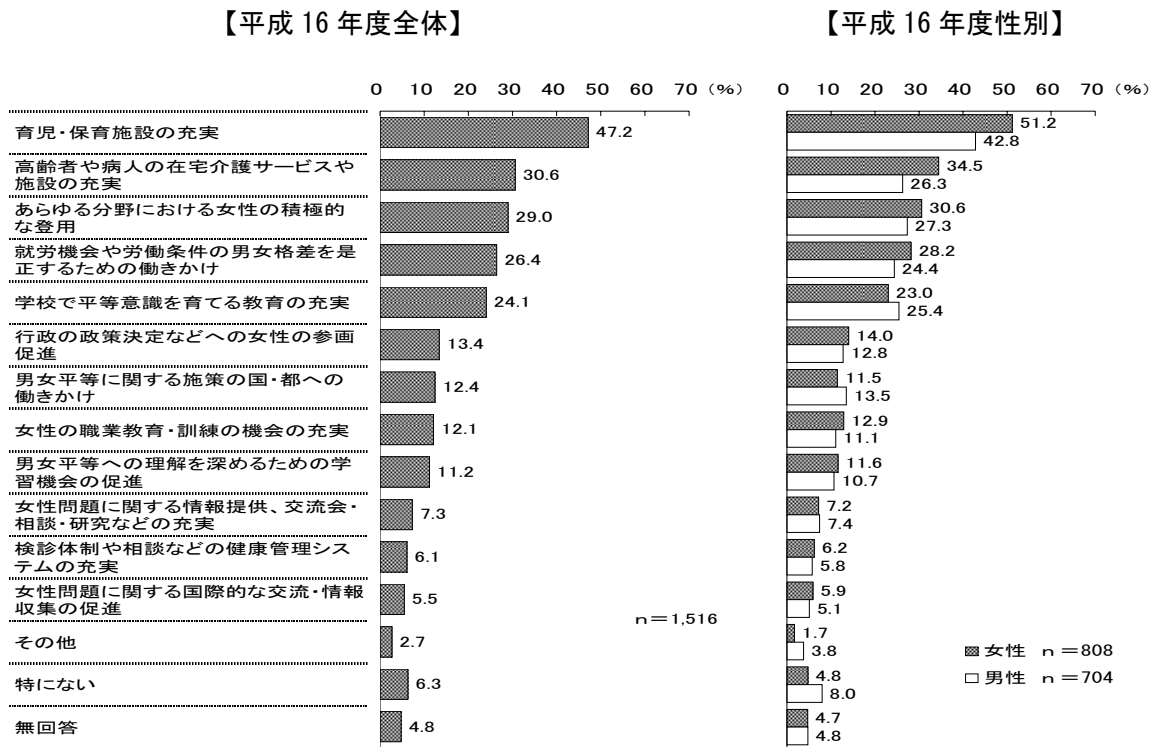
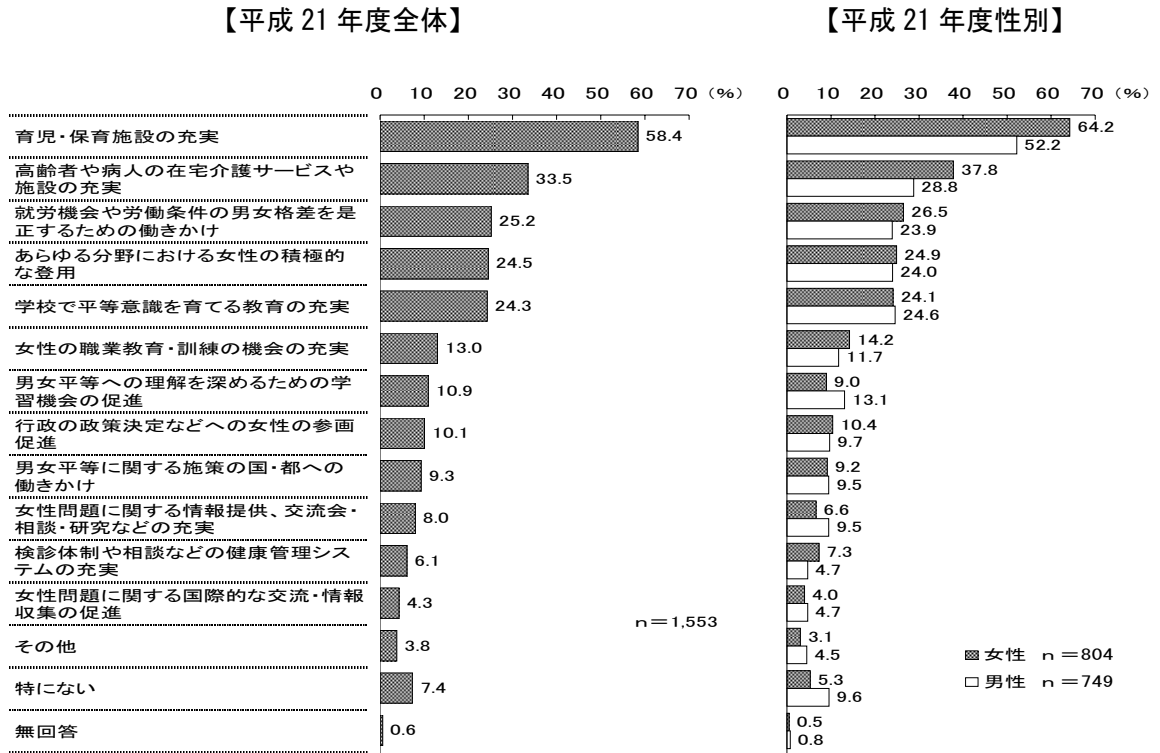


9-2 行政への要望

◎「育児・保育施設の充実」をはじめ、各分野での充実が求められている。

問 29 女性の地位を向上させて男女共同参画社会の実現をはかるために、今後、行政はどのようなことに力をいれるとよいと思いますか。(〇は3つまで)

図 9-2-1 行政への要望 (全体・性別)



男女共同参画社会に向けて行政に要望することとしては、「育児・保育施設の充実」が58.4%で最も多く、「高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実」(33.5%)、「就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」(25.2%)、「あらゆる分野における女性の積極的な登用」(24.5%)と続いている。

上位項目に「子育て」、「労働条件」、「介護」という現在の社会問題として大きく取り上げられている分野が並んでいることは、男女共同参画に含まれる課題の広さを端的に示すものであり、これらの分野における具体的な問題の解決こそが強く求められているといえよう。

(図9-2-1)

【性別】

性別で見ると、「育児・保育施設の充実」(女性64.2%、男性52.2%)と「高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実」(女性37.8%、男性28.8%)は、女性でより強い要望が示されており、「育児・保育」と「介護」負担における女性の切実な状況を映し出している。

(図9-2-1)

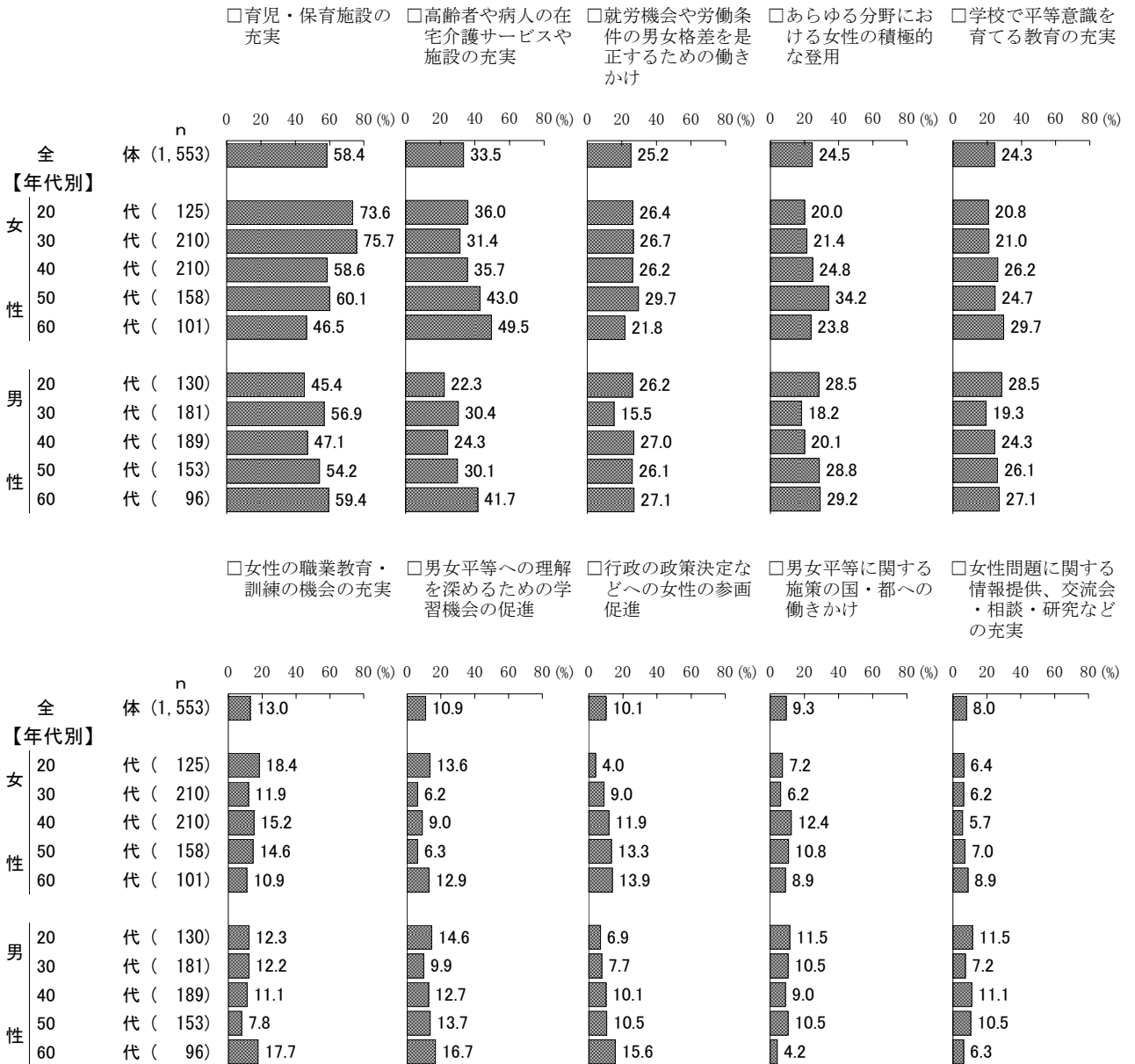
【過年度比較】

「育児・保育施設の充実」が平成16年度47.2%から58.4%へと大きく増加しており、これは男女ともに共通した要望となっている。(図9-2-1)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「育児・保育施設の充実」は女性では20代と30代で7割以上に達し、「高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実」は女性の50代と60代で4割台と多くなっているなど、年代による強調点の違いも現れている。(図9-2-2)

図9-2-2 行政への要望(上位10位)(性・年代別)



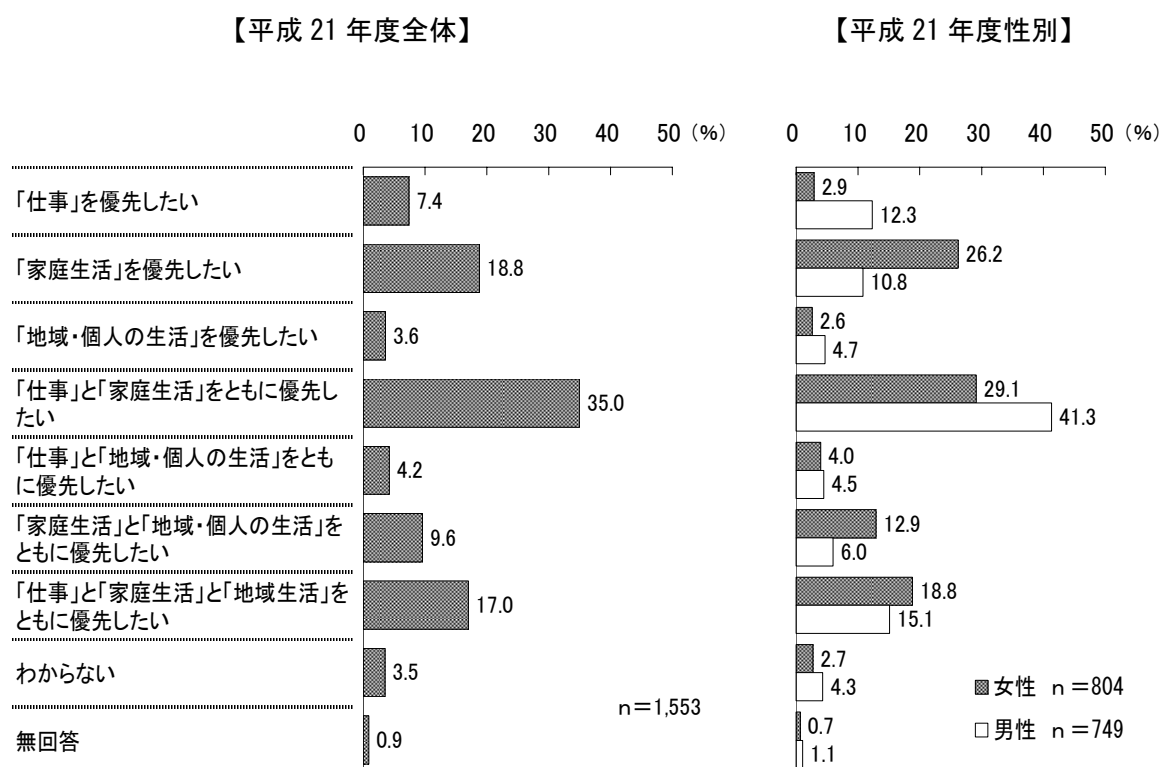
第10章 ワーク・ライフ・バランス

10-1 ワーク・ライフ・バランスの希望

◎【「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい】が35.0%で最も多い。

問30 あなたの生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度についておたずねします。あなたの希望に近いものはどれですか。現在仕事をしていない方もお答えください。(○は1つだけ)

図10-1-1 ワーク・ライフ・バランスの希望 (全体・性別)



【「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい】が35.0%で最も多く、次いで【「家庭生活」を優先したい】(18.8%)、【「仕事」と「家庭生活」と「地域生活」をともに優先したい】(17.0%)、【「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい】(9.6%)と続いている。

(図10-1-1)

【性別】

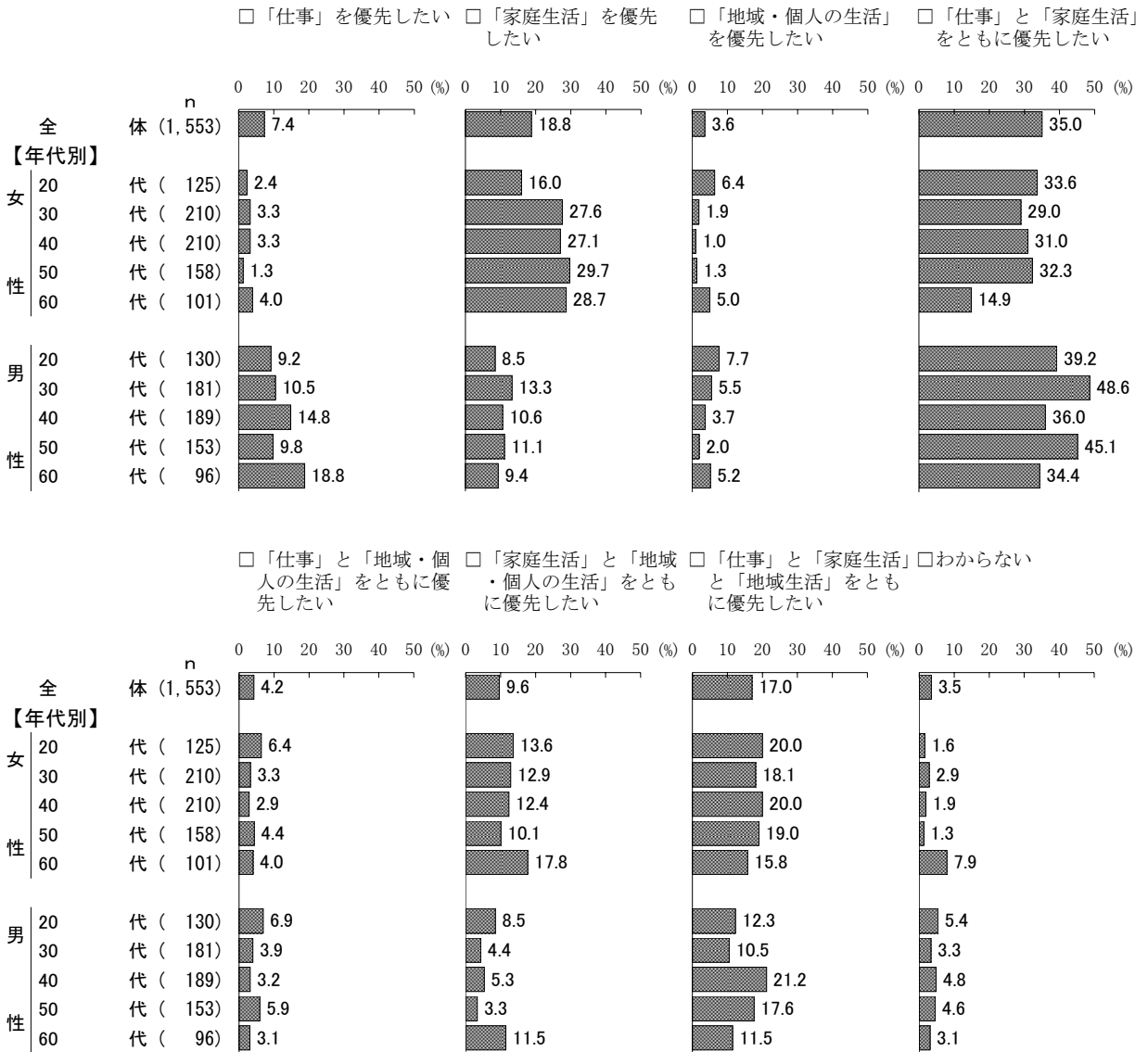
性別で見ると、女性では【「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい】(29.1%)と【「家庭生活」を優先したい】(26.2%)が多くなっている。

男性では【「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい】が41.3%と圧倒的に多くなっている。(図10-1-1)

【性・年代別】

性・年代別でみると、【「家庭生活」を優先したい】は女性の30代以上の年代で3割近く、【「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい】は女性の20代から50代の年代で3割前後を占めている。また男性では、【「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい】は30代と50代において4割以上を占めている。(図10-1-2)

図10-1-2 ワーク・ライフ・バランスの希望(性・年代別)



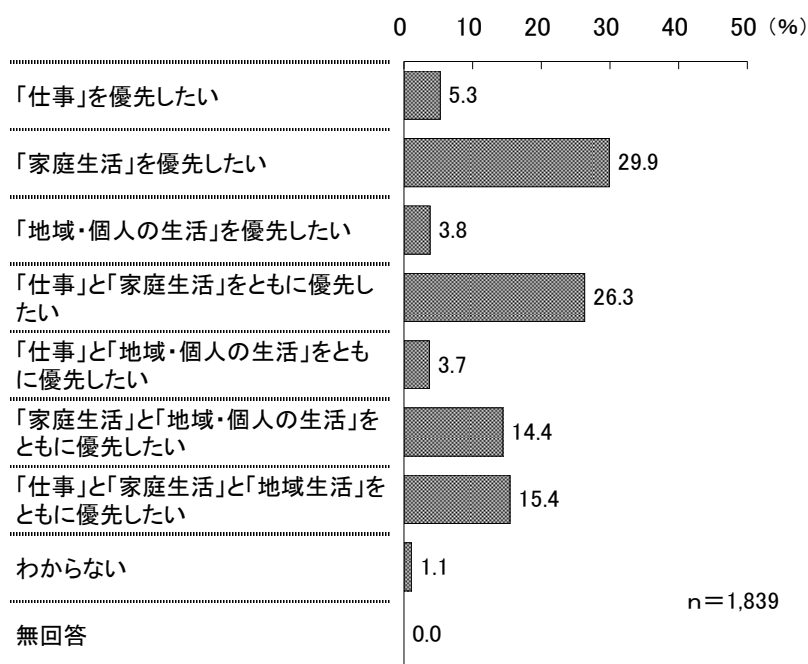
【参考 全国調査では】

内閣府実施の「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する特別世論調査」では、本調査と同様の質問を行っている。

平成 20 年 6 月に実施された調査では、【「家庭生活」を優先したい】が 29.9%で最も多く、次いで【「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい】が 26.3%となっている。

これは、【「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい】が 35.0%で最も多かった区の結果とは、異なる結果となっている。（図 10-1-3）

図 10-1-3 ワーク・ライフ・バランスの希望（内閣府）

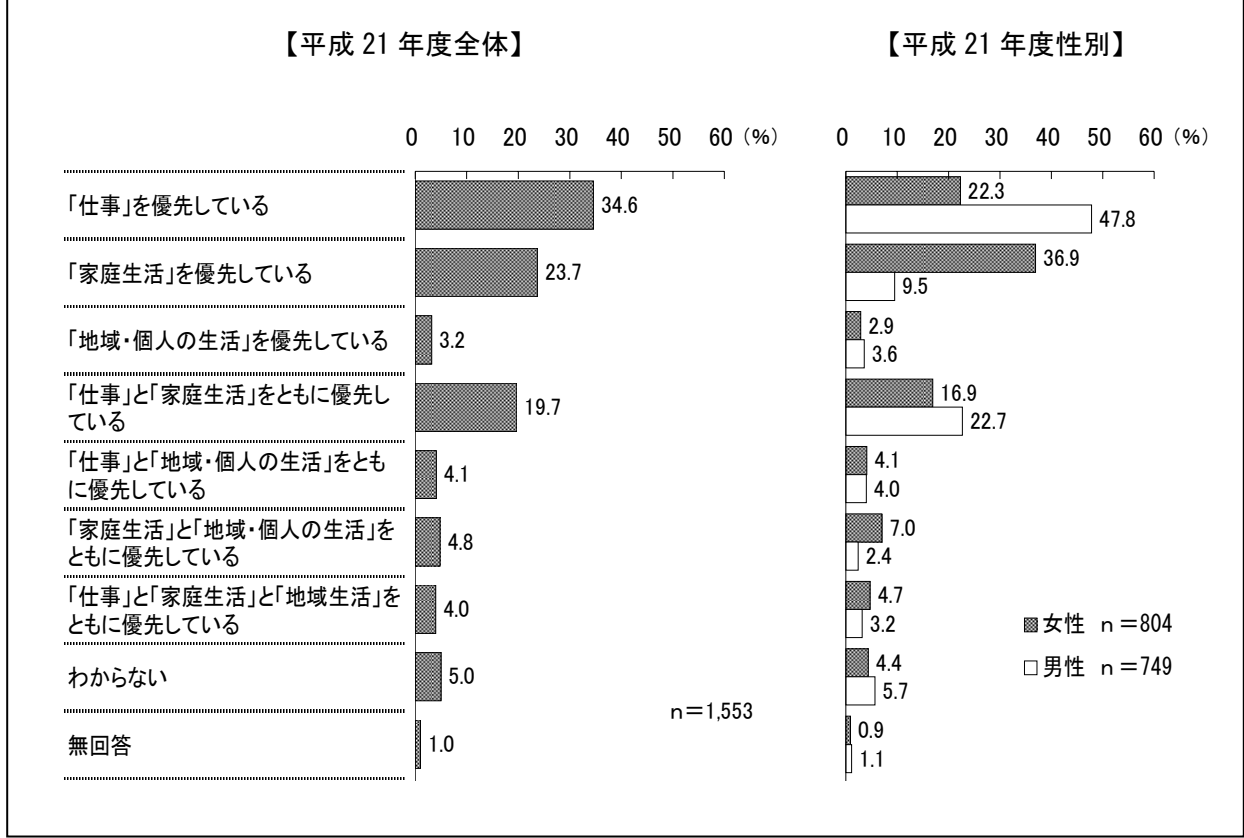


10-2 ワーク・ライフ・バランスの現実

◎【「仕事」を優先している】が34.6%で最も多く、希望とは差が生じている。

問31 問30の考え方に対して、あなたの現実（現状）に近いものはどれですか。
（○は1つだけ）

図10-2-1 ワーク・ライフ・バランスの現実（全体・性別）



【「仕事」を優先している】が34.6%で最も多く、次いで【「家庭生活」を優先している】が23.7%となっている。また、【「仕事」と「家庭生活」をともに優先している】は希望では35.0%と最も多かったが、現実では19.7%と大きく差が生じている。（図10-2-1）

【性別】

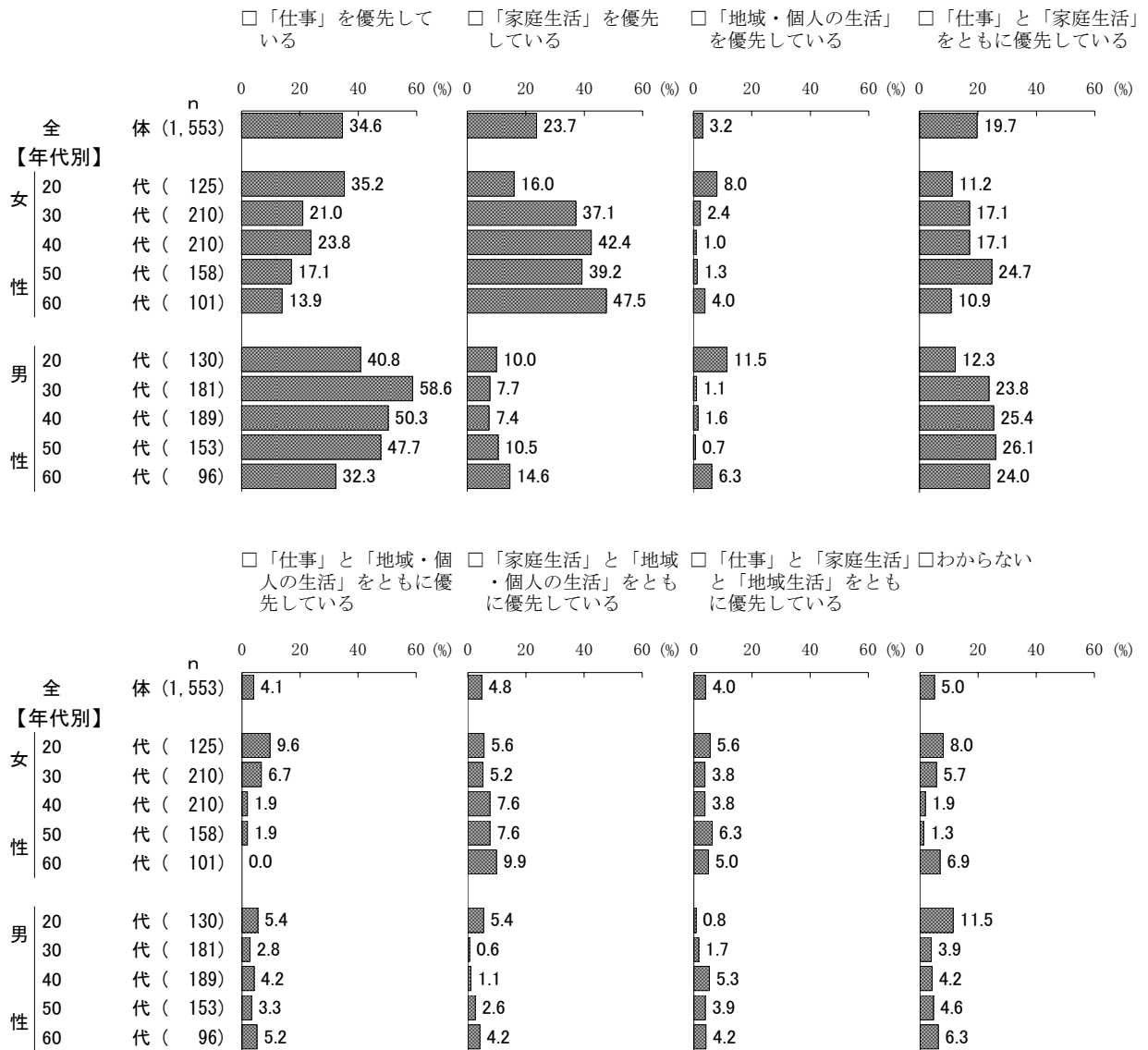
性別で見ると、女性では【「家庭生活」を優先している】が36.9%と最も多く、次いで【「仕事」を優先している】（22.3%）、【「仕事」と「家庭生活」をともに優先している】（16.9%）の順となっている。

男性では、【「仕事」を優先している】が47.8%と最も多くなっている。また、【「仕事」と「家庭生活」をともに優先している】は希望では41.3%と最も多かったが、現実では22.7%と大きく差が生じている。（図10-2-1）

【性・年代別】

性・年代別でみると、【「仕事」を優先している】は男性30代で58.6%と特に多く、また【「家庭生活」を優先している】は女性では高い年代ほど割合が高く、60代では5割近くに達している。(図10-2-2)

図10-2-2 ワーク・ライフ・バランスの現実(性・年代別)



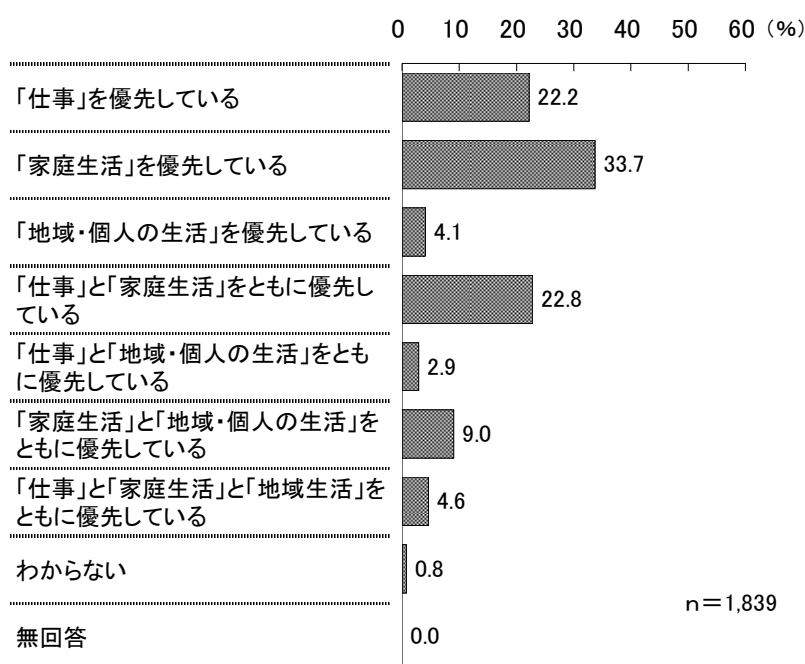
【参考 全国調査では】

内閣府実施の「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する特別世論調査」では、本調査と同様の質問を行っている。

平成 20 年 6 月に実施された調査では、【「家庭生活」を優先している】が 33.7%で最も多く、次いで【「仕事」と「家庭生活」をともに優先している】が 22.8%、【「仕事」を優先している】が 22.2%となっている。

これは、【「仕事」を優先している】が 34.6%で最も多かった区の結果とは、異なる結果となっている。（図 10-2-3）

図 10-2-3 ワーク・ライフ・バランスの現実（内閣府）

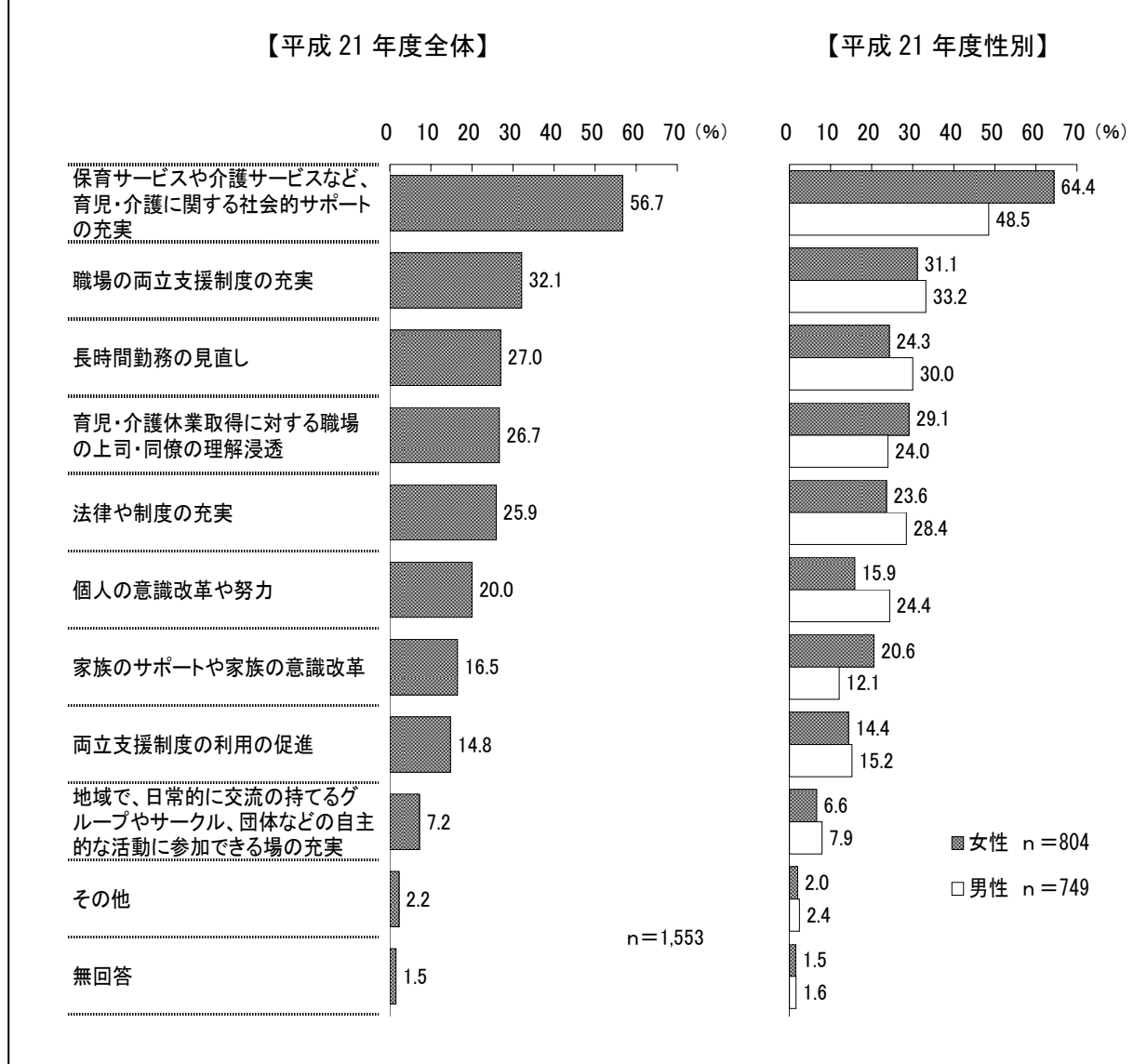


10-3 ワーク・ライフ・バランスに重要なこと

◎「保育サービスや介護サービスなど、育児・介護に関する社会的サポートの充実」が6割近く。

問 32 今後、仕事と生活の調和を図る上で、何が重要だとお考えですか。
(○は最も重要だと思う3つまで)

図 10-3-1 ワーク・ライフ・バランスに重要なこと (全体・性別)



「保育サービスや介護サービスなど、育児・介護に関する社会的サポートの充実」が 56.7% で最も多く、次いで「職場の両立支援制度の充実」(32.1%)、「長時間勤務の見直し」(27.0%) と続いている。(図 10-3-1)

【性別】

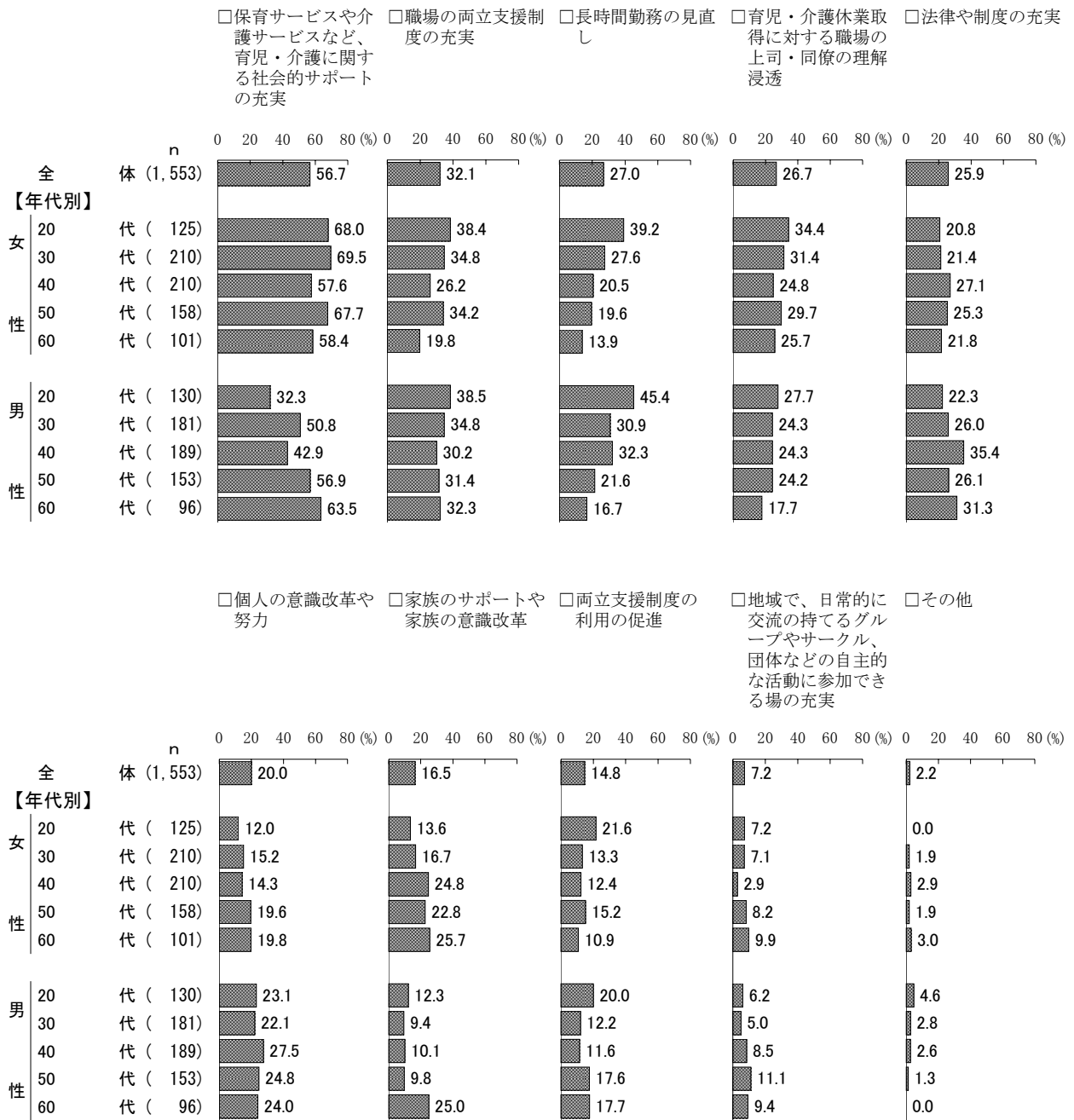
性別でみると、「保育サービスや介護サービスなど、育児・介護に関する社会的サポートの充実」は男女ともに最も割合が高くなっているが、特に女性では 64.4% と高くなっている。

(図 10-3-1)

【性・年代別】

性・年代別でみると、「保育サービスや介護サービスなど、育児・介護に関する社会的サポートの充実」は女性では年代に関わらず最も割合が多くなっている。また、男女ともに20代では「職場の両立支援制度の充実」と「長時間勤務の見直し」で割合が高く、職場での改善が求められている。(図10-3-2)

図10-3-2 ワーク・ライフ・バランスに重要なこと(性・年代別)



11. 自由意見

区の男女共同参画社会の推進に関して、回答者の224名からさまざまな意見が寄せられた。ここでは、その主な意見を紹介する。なお、紙面の都合、掲載に当たっては原文の主旨を損なわない範囲で一部表現を変えている場合がある。

【社会意識の変革が必要】

12件

- ・日本の政治も今変わりつつあり、社会もチェンジの良い機会だと思うので男女の意識も変えつつ、お互い平等で住みやすい社会にしていけたら良いと思います。
(男性、40代後半)
- ・女性が意見を言ったり、参加出来る社会にして欲しいです。(女性、30代後半)
- ・年配の男性には、まだまだ男女共同参画社会ということに抵抗がある方が多くいらっしゃるので、その意識改革が必要かと思いますが、おそらく今までの世の中の流れからいって考え方を改めることは容易なこととは思えないので、本当の男女共同参画社会を築くには少々時間がかかるのではないかと思います。(女性、50代前半)

【子育て・介護などの環境整備が必要】

29件

- ・保育所を沢山作って下さい。(女性、20代後半)
- ・子育て支援も大切と思いますが、高齢者が増えている昨今では、高齢者支援(介護支援)がより大切ではないでしょうか。お金を配布するなどの支援ではなく、個人では実現の難しい施設作りなどのインフラ整備を国や区こそが率先してやっていただきたいとします。(女性、30代前半)
- ・世田谷区は待機児童が多いと聞きます。もっと駅から近い場所に保育園を増やして下さい。(女性、20代後半)
- ・核家庭が多いので、子育てを助けてもらえる社会にしてほしい。安心して預けられる保育施設の充実、地域の人にも預けられるような対策を進めてもらいたい。
(女性、30代後半)
- ・保育サービスや介護サービスが充実しない限り、女性が安心して働きに行くことはできません。(女性、50代前半)

【男女が互いに相互理解やその人らしさの尊重に努めることこそ大切】

13件

- ・男女平等といっても性差があり、全く同じ仕事をするのが平等ではない。それぞれが互いの立場を尊重し、それぞれに向いた仕事を助け合えば良い。(男性、60代前半)
- ・女性問題も深刻ですが、男性問題も発生していると思います。要するに、男女とも互いを認め合わない社会が存在している現状に問題があると感じます。人の気持ちが、ずさんでいるのですね。人をお金や損得で判断せず、美しいものを求めていく心を育ていくことが、いろんな問題解決につながると思います。(男性、50代前半)

【男女共同参画の推進に疑問】**24件**

- ・女性の地位向上と平行して男性の仕事、地位、賃金も見直すべき。どちらか一方ではよくまとまらない。(男性、30代前半)
- ・平等とは、男女が同じ仕事をする事だとは思いません。男性は、子供を産む事は出来ないし、母乳も出ません。男性、女性それぞれの役割はおのずから決まっているのですからそれを無視する事は、かえって良くないと思います。(女性、60代前半)
- ・私は女性で仕事を持っていますが、こういった女性の地位向上みたいな話はあまり好きではありません。なぜ女性が男性と同じだけの地位を持たないといけないのか。今の女性が本当にその地位をもって責任を持って働くかは疑問です。女性には女性のやるべき事とかあると思う。(女性、30代後半)
- ・女性の地位、立場はどこまで上げる必要があるのか、そもそもそのような必要があるのか。(男性、20代後半)
- ・男女全くの平等というのはありえないと思います。男性、女性各々の特性を活かした形を作っていけるのがよいと思います。(女性、30代後半)

【職場環境の改善が必要】**6件**

- ・育児や介護休暇をとったあとも、フルタイムで残業をこなすことはしばらく難しい。その後、育児・出産をしなかった者と同じ部署や地位に着かせることは難しく、出産するのにかしないのか、介護休暇をとるのかとらないのかの時点で、その後男女平等の道へいくのか、男女格差の道へいくのかが決まるのが現状です。育児や介護休暇をとっても、男女平等の道から外れない、もしくは一度外れても元へ戻れる体制作りをお願いします。(女性、40代前半)
- ・離婚をして女性が1人で働いていくのはとても大変なことです。子供を大切に育てていきたいと思いながら現実には仕事が優先されています。何故かと言うと収入を得る為です。それが平等というものなのかもしれませんが、子供がいたからといっても、仕事なので何か対処してもらおうこともありません。(女性、40代前半)

【情報提供の充実】**12件**

- ・私は、「男女共同参画社会の推進」について、ほとんど情報がありませんでしたので、今回は大変良い機会だったと感じています。できれば今後、もっと大々的にアピールしていただきたいと思います。(女性、50代前半)
- ・世田谷区に越してきて4年になりますが、区が行っている“らぷらす”という施設について全く知りませんでした。法的なサポートやカウンセリング等、区のバックアップの充実は良いことと思いますが、啓発運動や積極的な情報公開をすることもっといいと思います。(女性、20代後半)
- ・もっと積極的にアピールしないと存在や活動を知らない人が多いのでは？
(男性、50代前半)

【家庭の子育てのあり方】

11件

- ・ 子供は母親がつねにいないと、くれる可能性が高いと思う。(男性、30代後半)
- ・ 子供が小さい時(私は小学生ぐらいまでと考えます)は、母親はそばにいるべきだと思います。(女性、30代後半)
- ・ 男女共同参画社会…大いに結構ですが、「我が子」を育てるという大事な仕事がおざなりになっていると思います。いろいろな事情で働かざるを得ない人はともかく、ただ「平等に働きたい」「家庭だけに居るのは堪えられない」などの理由で、赤ん坊を預けてまで働きに出るとするのは、長い目で見たら間違っているのではないかと思います。どんなに時代が変わってもやはり子供にはお母さんの愛情と、そばに居られる安心感が何より必要で大切だと思います。(女性、40代前半)

【地域活動の促進・支援】

8件

- ・ 男とか女とか区分なくもっと地域での交流や、簡単に参加できるイベントがあればいいと思う。(女性、20代前半)
- ・ 社会福祉協議会と連携して、地域の活性化してほしい。(男性、30代後半)
- ・ 参加できる企画が少ない。年齢制限や地域がある。(女性、50代前半)

【区の施策展開について】

32件

- ・ 調査内容は理解できるが、前提条件となる「男女共同参画プラン」の趣意を理解しないで記入するのは少々疑問がある。すなわち、施策の浸透が区民に行われる事が第一でないかと考えます。活動自体は素晴らしいと思われるが、推進される事を望みます。
(男性、40代後半)
- ・ 身近な行政サービスである「区政」と「男女共同参画」という大きなテーマの関連には、正直言って、あまりピン！とくるものがありませんでした。世田谷区の現在行っている具体的な事業に対する調査の方が有効ではないかと思いました。(男性、50代前半)
- ・ いろいろ試みては下さっているようですが、正直まったく実感できません。情報もあまり提供されていないし、何が男女共同参画の試みなのか分かりません。
(女性、30代後半)
- ・ 世田谷区が男女共同参画社会の推進を行っている事を、よく知らなかったのも、これからのような内容なのか注目していきたいと思う。(女性、50代前半)

【アンケートについて】

4 4 件

- ・ アンケートの量が多すぎると思う。(男性、20代前半)
- ・ アンケートとは別紙で、このアンケートの「目的」「対象者」「アンケートの活用方法」等を説明する内容のものをつけて欲しい。内容を見れば分かるのかもしれないが、ボリュームのあるアンケートを見てくださいない人もいないのでしょうか？
(女性、30代前半)
- ・ 今回のこの調査をまとめたものは知らせて頂きたく思います。(女性、40代前半)
- ・ ひとり暮らしで働いているのであまり自宅訪問型の回収は出しにくい。返信用の封筒をつけてくれたほうがありがたいです。次回から調査法を改めて下さい。
(女性、30代後半)
- ・ 次回調査があるならば、インターネットを使ってはいかがでしょうか。
(女性、30代後半)
- ・ 質問の内容が適切な内容といえないと感じる。(男性、30代前半)

【その他の意見】

3 3 件